

# 奈良女子高生が

## 「奈良公園推し活プロジェクト」

訪日観光客に人気の「奈良のシカ」。エサを求めておしぎするシカの仕草が愛らしいと、評判のようだ。そのシカと人との共生をテーマにSDGsに取り組むのは、奈良市三条宮前町の私立奈良女子高校（石原勉校長）の1年生たち。「奈良のシカはかわいだけじゃない」と問題点も含め、奈良公園の魅力を発信する「奈良公園推し活プロジェクト」に取り組んでいる。



訪日観光客に奈良公園の魅力をPRする奈良女子高校生たち=18日、奈良市登大路町の奈良公園

### シカと人との共生テーマに

## 訪日客に魅力PR

#### ■授業にSDGs科目設定

同校では全学年の学びに探究学習を取り入れ、持続可能な社会づくりへの視点と、社会参画への意識を育てている。総合進学コースでは学校設定教科に、SDGsの科目を設定し、座学

#### ■座学から実践へ

今回、シカと人との共生をテーマに、奈良公園の生態系や保護施設のシカと奈良公園のシカとの違いなど、歴史や理科の視



折り紙でシカを作る（奈良女子高校提供）

点だけではなくSDGsを達成するための行動を重視している。

点から考察した。

調査結果を奈良公園の魅力として訪日観光客に伝えようと、18日、生徒たちは奈良公園でPR活動。タブレットを片手に英語で話しかけ、芝刈りをしない奈良公園の芝生が美しいのは、シカが芝を食べてだした糞（ふん）をコガネムシが分解し再び芝が生える循環ができていること、シカがごみを食べたり交通事故で死亡しないために人のモラルが大切であること、長い歴

史の中で人々がシカとどのように向き合ってきたのかを紹介。シカの形にした折り紙をプレゼントした。

フランスから訪れたケビン・ジカロさんは「勉強になった」と笑顔。同校1年の藤原奏さん（16）は「奈良のシカとSDGsとの関連が分かった。海外の人がフレンドリーで楽しかった」と話し、身近な問題意識と行動の大切さを感じていた。